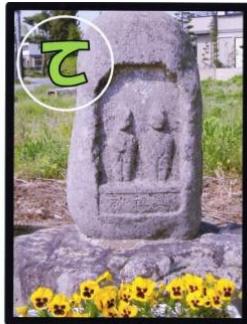


「七日市場の歴史（第六十回）」

地区の話題

曾根原 孝和

かるたを作ろう 令和5年6月、公民館（文化部）と「歴史の会」は協働して「かるた作り」の講座を開き、16名が参加されました。



講座では、「七日市場かるた」への願いを、七日市場の「良いところ」「美しいところ」「残していきたいところ」などを探し、取り上げる事柄の参考には、『七日市場の歩み』を手掛かりに、自然や歴史、文化、人物、建物などを見ていくしようと、呼びかけて作りました。そして当日の参加者から、読み文字44字のうち26字分の読み札が作られ、前途に明るさが見えました。

七日市場には、石造文化財が60基ほど確認されています。そのうち、道祖神は三郷全城75基のうちの4基と少ないのですが、建立時期は寛政年間が3基、文化二年が1基です。

「七日市場の歩み」 73ページ

18字分の追加募集 12月、公民館では残りの18字分の呼びかけをしました。そして締め切りには、合計32人から120句が寄せられました。この中には、同じ字句のダブリがあり、これを6年度早期に検討することになりました。

読み札と絵札 6年度の協働の委員会では、まずダブリをなくすこと、投稿者の一句は必ず入れることを確認して検討しました。心を込めて作られた中から選択することはつらいことでしたが、委員会の多数の意見で決めさせていただきました。

絵札は、5年度の「風景写真展」の写真に使えるものがあり良かつたです。他是公民館と「歴史の会」で分担して撮り、数を揃えました。今は、分担した写真（絵札）と読み札を合わせています。

『七日市場の歩み』で解説

なお、「かるた」には、ひと札ごとに冊子を参考にした解説を付けています。（右写真）

地区の皆さんを作り、良さが一杯の「七日市場かるた」の発表会は、11月17日（日）を予定しています。